

## エネルギー環境教育との出会い

香川県坂出市立白峰中学校 好井智子

私がエネルギー環境教育を知ったのは今から10年以上も前のことです。先輩の理科の先生から「エネルギー関連の授業の支援をしてくれる機関があるから、是非取り組むといいよ。」と言われたのがきっかけでした。資源エネルギー庁の「エネルギー教育実践校」に認定されてから、エネルギー関連施設見学や研修会に参加したり、全国の同じ志の教員とも知り合ったりして、「エネルギー環境教育」は私の教員生活の時間の多くを占めるようになっていきました。

当初は誰もがそうだったかもしれませんが、「エネルギー環境教育」をどう実践していけばいいか迷いました。しかし、理科の授業も“エネルギー”という視点で進めていくと、生徒は実験にも意欲的になり、何かにつけて“エネルギー”を意識するようになりました。たとえば「手でフラスコを温めて、ガラス管の水が動く」という簡単な実験でも“エネルギー”と関連づけてあげると生徒は驚き、自分の体温が水を動かす“エネルギー”になっていることを実感しました。そしてジェットコースターも“位置エネルギー”と“運動エネルギー”の関係で動いているということを知り、様々のことを“エネルギー”と関連づけて考えるようになり、学習を生活と結びつけて考えることができる生徒が育ってくれました。卒業した生徒たちがやってきて、授業の思い出話が出た時に、『先生とした理科のエネルギー実験がおもしろかった。』『エネルギーのことが今も頭に残っているよ。』といわれると「やって良かった。」と嬉しく思います。

また2011年の福島第一原子力発電所事故以降は、実践校の時に参加した多くの研修会や見学等で学んだ放射線に関する知識が、現在勤めている学校の授業で役立ちました。あれから3年経ちましたが、今こそ、放射線に関する正しい知識を子どもたちに教え、自分たちが将来向き合う問題に対してきちんと判断できるようにしていくことが大切だと思っています。授業後の生徒の感想には「放射線のことが分かり、どのようにして放射線を防ぐといいのかが分かった。」とか「怖いと思っていたが、正しくわかりこれから正しい判断をしていきたい。」「高レベルの放射性廃棄物がたくさんあることに驚いた。」等と書かれていました。

これからも理科という知識を教えるのではなく、“エネルギー”や“環境”という面からとらえて授業をすることで、生徒自身が自分の生活に関連づけて学習し、勉強した内容を生活に生かしてほしいと思っています。“エネルギー”は何とでも関連づけることができ、人体のつくりやはたらき、食、天気、大地の変化等々、考えれば多種多様に取り組める教材です。教師が楽しくワクワクする気持ちで授業をすれば、生徒たちも目を輝かせて熱心に取り組んでくれるはず。その授業ができるのが「エネルギー環境教育」なのです。